

事例No.21

事業名	担い手育成基盤整備事業 「土崎小荒川」地区	事例キーワード 地下水脈阻害対策
事業担当機関	仙北地域振興局仙北平野農村整備事務所	
事業期間	平成10年～平成18年	
実施場所	仙北郡千畑町・仙北町	
事業概要	全体事業費	5,525百万円
	工事概要	区画整理工 A=320.3ha
	事業の目的	将来の農業生産を担う経営体や担い手を育成し、必要となる生産基盤の整備及び生活環境の整備を一体的に実施することにより、優良農地を将来にわたり適切に維持・保全し、ひいては食料自給率の向上・農業の多面的機能の十分な発揮に資することを目的とする。
環境配慮の内容	<p>「地下水脈阻害対策に努める」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本地区は仙北平野のほぼ中心、奥羽山脈の裾野に位置し、湧泉等の豊かな自然環境を形成しており、これら湧泉等にはイバラトミヨ雄物型（レッドデータブックⅠA類）をはじめとする多様な生物が生息している。このため、事業に伴う地下水脈と湧泉等の影響に関する調査を実施。（現況調査にあたっては、地下水位の季節的变化・湧泉の水位、周辺住宅等の井戸などの状況調査のほか、湧泉に生息する貴重な動植物の生息状況についても調査） 2. 本地区の場合、通常のほ場整備を実施した場合には、（新設する排水路や地盤の切土により）地下水脈を分断する可能性があることから、これを考慮して保全盛土を実施。 3. 保全盛土に使用する土砂は、当該生態系に影響を与えないよう十分な調査の後現場に搬入して使用。 4. 保全盛土後にも、地下水状況および周辺環境（湧水等）の状況を継続調査を実施している。 	
状況後の	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保全盛土実施後の経過は、良好であり地下水脈の枯渇は見られない。 2. 保全盛土のほか希少種の配慮施設手法を同時に実施したことから、地域の環境に与える負荷を最小限に抑えて事業実施することが可能となった。 3. （保全盛土を実施するための）地元説明会等を通じて、地下水脈や希少種保全への地域住民の関心が高まり、結果として維持管理体制の確立などの効果が生まれている。 	

図面、写真、説明



現況湧泉状況



イバラトミヨ雄物型



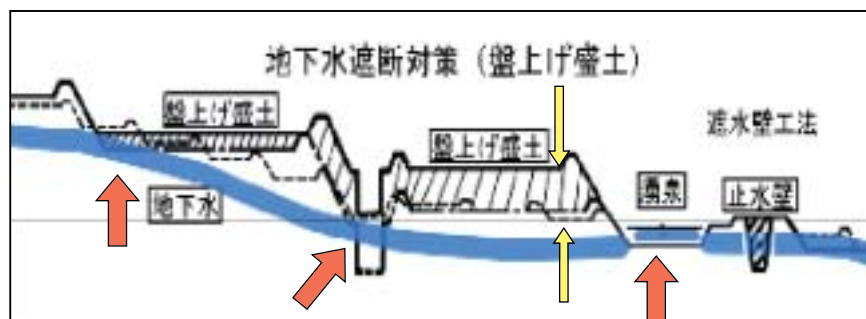
スナヤツメ



ミクリ

湧泉に生息する多様な生き物

保全対策盛土概念図



↑ 地下水分断される可能性がある部分



保全盛土

現況地盤

盛土状況